

自己点検・自己評価表（平成27年度）

1. 学校の教育目標

本学園の建学の精神である「私たちの学ぶ技術は、芸術であり、科学であり、職業でもある」を基盤にして「心ある、そして考える医療人を育てる」という教育理念のもと、学生一人ひとりの個性を大切に、対象となる人々に寄り添い相手を慮る（おもんばかり）心を育み、また、常に多角的な視点から思慮深く考え、共創の心をもって医療を実践できる能力を育てる。

目標を達成するために、生命の尊厳と個々の人格の尊重を基盤とした豊かな感性と幅広い教養を身に付けた「人間性の教育」、理論的思考・深い洞察力と判断力により、主体的・創造的に医療を実践できる「専門性の教育」、地域の保健ニーズを理解し、保健医療福祉チームの一員として、組織的に支援できる「社会性の教育」、学問への探求心とその向上・発展に貢献できる「向上性の教育」に注力し教育を実践する。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

1) 第三者評価を実施する

平成27年9月末までに申請書類を提出し、第三者評価を受ける。

2) 職業実践専門課程認定に向け、準備を推進する。

職業実践専門課程準備委員会・学校関係者評価準備委員会を立ち上げ、学校関係者評価委員会並びに教育課程編成委員会を開催する。

3) 教育会議を実施する

「教員の教育力向上」「卒業率の向上」「資格取得率の向上」に向けた検討を教務部長を中心に実施し、その進捗を確認する。

4) 教員の教育力向上を図る

「教員相互評価」の範囲を拡大し、その定着を図る。また、非常勤講師の授業評価の実施方法を検討する。

5) 卒業率の向上を図る

「退学者数」「留年者数」「卒業留保者数」の減少を図る。まずは、退学者の要因分析を行い、解決の方向性を決定する。

6) 資格取得率（国家試験合格率）の向上を図る

各学科において目標値と年間計画を立て、教育会議において情報共有を図るとともに、その進捗状況に応じた対策を図る。

7) 就職支援体制の充実を図る

各学科においてキャリア教育・就職支援年度計画を立て、教育会議において情報共有を図るとともに、その進捗に応じた対策を図る。

8) 施設・設備の充実を図る

各学科の教育設備備品の予算計画を遂行するとともに、修繕計画に基づいた修繕を実施する。

3. 評価項目の達成、取り組み状況

1. 教育理念・目的・育成人材像

評価項目	4 : 適切	3 : ほぼ適切	2 : やや不適切	1 : 不適切
理念・目的・育成人材像は定められているか。	④	3	2	1
育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	④	3	2	1
理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	4	③	2	1
社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	4	③	2	1
理念等、将来構想を教職員に周知しているか	4	③	2	1

①課 題

- ・理念等と教育活動との関連性について、学校 HP 等で明確に示すことができていない。
- ・将来構想と社会的ニーズの適合性の確認、及び教職員への周知が不十分である。

②今後の改善方策

- ・理念等達成に向けた教育活動を学校 HP 等で明確に示す。
- ・将来構想の教職員への周知方法をより具体的に構築する。

③特記事項

- ・育成人材像について、学校関係者評価並びに第三者評価を受けることにより、業界等のニーズに適合しているかの確認を実施した。
- ・理念等、将来構想の教職員への周知を図る目的で、教職員アンケートを実施する予定である。

2. 学校運営

評価項目	4 : 適切	3 : ほぼ適切	2 : やや不適切	1 : 不適切
理念に沿った運営方針を定めているか	4	③	2	1
理念等を達成するための事業計画を定めているか	4	③	2	1
運営方針、事業計画を教職員に周知しているか	4	③	2	1
設置法人は組織運営を適切に行っているか	④	3	2	1
学校運営のための組織を整備しているか	④	3	2	1
人事・給与に関する制度を整備しているか	④	3	2	1
意思決定システムを整備しているか	④	3	2	1
情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	4	3	②	1

①課題

- ・ 運営方針、事業計画は新年度会で明示しているものの、教職員への周知徹底が十分とは言えない。
- ・ 情報システムの整備について方向性は明確であるが、具体的実施に向けて取り組めていない。

②今後の改善方策

- ・ 運営方針、事業計画についてはより具体的に明示し、教職員への周知徹底を図る。
- ・ 情報システムの整備については、具体的実施に向けての予算立てを行う。

③特記事項

- ・ 今年度より、人事評価結果を賞与に反映した。
- ・ 学校運営や人事に関する規程等を整備した。

3. 教育活動

評価項目	4 : 適切	3 : ほぼ適切	2 : やや不適切	1 : 不適切
理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	4	③	2	1
学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	④	3	2	1
教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	4	③	2	1
教育課程について、外部の意見を反映しているか	4	③	2	1
キャリア教育を実施しているか	4	③	2	1
授業評価を実施しているか	4	③	2	1
成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	④	3	2	1
目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	④	3	2	1
資格・免許取得の指導体制はあるか	④	3	2	1
資格・要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1
教員の資質向上への取組みを行っているか	4	③	2	1
教員の組織体制を整備しているか	4	③	2	1

①課 題

- ・看護学科二年課程及び臨床教育専攻科において、教育課程編成や実施方針を明確に示せていない。
- ・キャリア教育の効果について卒業生等の意見聴取や評価を行っていない。
- ・外部講師が行う授業において、学生による授業評価が実施できていない学科がある。
- ・専任教員と外部講師、各授業科目間などとの連携を組織的に実施できていない。
- ・学生による授業評価や教員相互評価を実施しているものの、両者の関連性やその結果に基づいた具体的改善方策などが明確化していない。

②今後の改善方策

- ・看護学科二年課程及び臨床教育専攻科における教育課程編成方針を明確に示す。
- ・全学科での教育課程編成委員会実施に向けた取組みを行う。
- ・教育課程編成やキャリア教育の効果測定や見直しの材料とするための外部アンケートを実施する。
- ・外部講師の授業評価実施に向けての取組みを行う。
- ・学生による授業評価や教員相互評価の結果を、教員の資質向上に活かすための具体的方策を構築し、実施する。

③特記事項

- ・リハビリテーション学科及び東洋医療総合学科において、教育課程編成委員会を実施した。
- ・教員の教育力向上に向け「教員相互評価」を実施した。

4. 学修成果

評価項目	4 : 適切 3 : ほぼ適切 2 : やや不適切 1 : 不適切			
	就職率の向上が図られているか	4	③	2
資格・免許の取得率の向上が図られているか	4	③	2	1
卒業生の社会的評価を把握しているか	4	③	2	1

①課 題

- ・卒業生の社会的評価について組織的に把握できていない。

②今後の改善方策

- ・就職、資格取得に関する目標と計画に関して学校として把握する体制を整える。
- ・卒業生やその就職先等への外部アンケートを実施するなどして、社会的評価の把握に努める。

③特記事項

- ・各学科においてキャリア教育・就職支援に関して目標と年間計画を立て、その進捗を確認し、実施した。
- ・各学科において資格取得に向けた目標と年間計画を立て、その進捗を教育会議で確認し、実施した。
- ・今年度新卒者、平成 28 年 5 月 1 日時点の専門分野就職率（専門分野就職者数／就職希望者数）は、看護学科二年課程 100%、東洋医療総合学科 1 部 76.2%、東洋医療総合学科 2 部 60%、リハビリテーション学科 100%、臨床教育専攻科 91.7%、看護学科二年課程（通信制）100%であった。
- ・今年度新卒者の国家試験合格率は看護学科二年課程（看護師 97.2%）、東洋医療総合学科 1 部（あま指師 100%、はり師 100%、きゅう師 100%）、東洋医療総合学科 2 部（あま指師 100%、はり師 100%、きゅう師 100%）リハビリテーション学科（理学療法士 82.5%）、看護学科二年課程（通信制）（看護師 82.0%）であった。

5. 学生支援

評価項目	4 : 適切	3 : ほぼ適切	2 : やや不適切	1 : 不適切
就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	4	③	2	1
退学率の低減が図られているか	4	③	2	1
学生相談に関する体制を整備しているか	4	③	2	1
学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	4	③	2	1
学生の健康管理を行う体制を整備しているか	④	3	2	1
地方からの入学生に対する生活環境支援体制を整備しているか	4	③	2	1
課外活動に対する支援体制を整備しているか	4	③	2	1
保護者との連携体制を構築しているか	4	③	2	1
卒業生への支援体制を整備しているか	4	③	2	1
産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	4	③	2	1
社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	4	③	2	1

①課題

- ・就職に関する情報集約と活用状況が十分であるとは言えない。
- ・退学率減少に向けて各学科で取り組みを行っているが、その低減は図れていない。
- ・カウンセリングルームを設置しているが相談できる日数や時間が少ない。
- ・学生面談室の環境がプライバシーに配慮した設備となっていない。
- ・全学生を対象とした学校独自の経済的支援体制（奨学金制度）が確立できていない。
- ・課外活動に対する学生の要望があった場合の対応等について不明確である。
- ・学校として同窓会との連携体制が不十分である。

②今後の改善方策

- ・教員と事務とが一体となった就職支援の在り方を検討し、構築する。
- ・1年次の退学率低減に向けた具体的取組みを検討し、実施する。

③特記事項

- ・東洋医療総合学科では関連企業による就職説明会を実施した。
- ・教育会議において各学科の退学者要因分析を実施し、その情報共有を図るとともに、低減を図るための取組みを実施した。
- ・学生相談室の開室日数を週2日（月・水）に増やした。
- ・看護学科二年課程（通信制）も「専門実践教育訓練」の認定を受けた。

6. 教育環境

評価項目	4 : 適切 3 : ほぼ適切 2 : やや不適切 1 : 不適切			
	教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	④	3	2
学外実習の実施体制を整備しているか	④	3	2	1
海外研修の実施体制を整備しているか	④	3	2	1
防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	④	3	2	1
学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	④	3	2	1

①課 題

- ・防災や危機管理マニュアルについて、より一層教職員や学生に周知する必要がある。

②今後の改善方策

- ・防災以外の危機管理対策についても、訓練を実施するなどして、教職員や学生への周知を図る。

③特記事項

- ・防災訓練において炊き出し訓練を実施した。
- ・危機管理のため、1階総務課に刺叉を設置した。

7. 学生の募集と受け入れ

評価項目	4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切			
高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	④	3	2	1
学生募集活動を適切かつ効果的に行っているか	4	③	2	1
入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	④	3	2	1
入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	4	③	2	1
経費内容に対応し、学納金を算定しているか	④	3	2	1
入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱いを行っているか	④	3	2	1

①課題

- ・入学者の学力に応じた、学校としてのサポートが不十分である。

②今後の改善方策

- ・学習支援の在り方を再検討し、具体的に実施する必要がある。

③特記事項

- ・入学パスポートを発行し、入学予定者に対して早期学校公開を実施した。
- ・2016年度入学生において、看護学科二年課程で2名、リハビリテーション学科で5名の定員を確保することができなかった。

8. 財 務

評価項目	4 : 適切	3 : ほぼ適切	2 : やや不適切	1 : 不適切
学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	4	③	2	1
学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	④	3	2	1
教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	4	③	2	1
予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	4	③	2	1
私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	④	3	2	1
私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	4	③	2	1

①課 題

- ・各学科における予算等計画については「教育研究備品」の項目では行っているものの、入学前サポートや模擬試験の受験料等の教育内容に関する項目においてはできていない。
- ・各学科や部署における予算計画や予算管理に関して、運用上のルールが明確に記されていない。

②今後の改善方策

- ・各学科や部署の予算計画や管理に関する運用上のルールを策定する必要がある。

③特記事項

- ・財務分析については公認会計士が作成した「財務計算に関する書類（決算書）」を基に①資金収支計算書②消費収支計算書③貸借対照表④収益事業会計を分析している。
- ・各学科・部署に関する予算管理は計画に従い実行している。また、予算外経費については稟議書にて申請し決済している。
- ・財務情報公開規程を現状に即す形に整備した。

9. 法令等の遵守

評価項目	4 : 適切	3 : ほぼ適切	2 : やや不適切	1 : 不適切
法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	④	3	2	1
学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	④	3	2	1
自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	④	3	2	1
自己評価結果を公表しているか	④	3	2	1
学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	④	3	2	1
学校関係者評価結果を公表しているか	④	3	2	1
教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	4	③	2	1

①課題

- ・情報公開ガイドラインに基づく情報公開が十分であるとは言えない。
- ・情報公開に向けた学内でのチェック体制が明確化していない。

②今後の改善方策

- ・情報公開ガイドラインに基づく情報公開を進めるとともに、学内でのチェック体制を明確にする。

③特記事項

- ・今年度は3回の学校関係者評価も実施し、結果を学校HPで公表することができた。
- ・今年度は第三者評価を実施し、結果を学校HPで公表することができた。

10. 社会貢献・地域貢献

評価項目	4 : 適切 3 : ほぼ適切 2 : やや不適切 1 : 不適切			
	学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④	3	2
学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	4	③	2	1

①課題

- ・学生ボランティアに関する担当窓口が不明確であり、周知徹底されていない。

②今後の改善方策

- ・学生ボランティアに関する担当窓口を明確にし、周知徹底を図る。

③特記事項

- ・「おおた区民大学」(6~7月)との連携講座、「ユニバーサル駅伝」(6月)への協賛を実施した。
- ・文部科学省委託事業「超高齢社会における認知症患者に寄り添う医療・介護連携型の中核的鍼灸専門人材の育成」事業を継続して実施した。

11. 国際交流

評価項目	4 : 適切 3 : ほぼ適切 2 : やや不適切 1 : 不適切			
	国際交流に取り組んでいるか	4	③	2

①課題

- ・留学に関する担当窓口が不明確であり、周知徹底されていない。

②今後の改善方策

- ・留学に関する担当窓口を明確にし、周知徹底を図る。

③特記事項

- ・今年度はリハビリテーション学科の学生 16 名が米国研修に、東洋医療総合学科・臨床教育専攻の学生 29 名が中国研修に参加した

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

1) 平成 27 年度重点目標に対する取組みと結果

(1) 第三者評価を実施する

平成 27 年 9 月末に申請書類を提出し、平成 28 年 1 月 27 日に第三者評価委員によるヒアリング調査を受け、全項目において「可」の評価を得ることができた。

(2) 職業実践専門課程認定に向け、準備を推進する。

3 回の学校関係者評価委員会を実施し、学校関係者による学校評価を実施した。

リハビリテーション学科及び東洋医療総合学科においては教育課程編成委員会を 1 回実施し、教育課程編成に向けた外部からの意見を聴取することができた。

(3) 教育会議を実施する

9 回の会議を実施し、退学者要因分析、資格取得に向けた計画の進捗確認と情報共有を図ることができた。

(4) 教員の教育力向上を図る

20 名の専任教員の授業に対して教員相互評価を実施した。

(5) 卒業率の向上を図る

教育会議にて平成 26 年度の退学者要因分析を実施し、各学科での情報共有を図ることができた。

(6) 資格取得率（国家試験合格率）の向上を図る

教育会議にて資格取得に向けた計画の進捗を確認するとともに、学生のモチベーション向上のための「モーニングシャワー（「毎朝」励ましの言葉と過去問題のメルマガ配信）」をリハビリテーション学科と東洋医療総合学科で 2 月より実施した。

(7) 就職支援体制の充実を図る

学生事務課による就職ガイダンスを各学科で実施した。また、東洋医療総合学科では関連企業と連携した「合同就職説明会」を 3 月 4 日に実施し、15 社が参加した。

(8) 施設・設備の充実を図る

- ・看護学科二年課程では沐浴人形一式を購入した。
- ・リハビリテーション学科では杖・補装具一式、超音波治療器、低周波治療器、歩行神経筋刺激装置を購入した。
- ・東洋医療総合学科ではプロジェクター 1 台、オークレーブ 2 台を購入した。
- ・臨床教育専攻科では、プロジェクターを 2 台購入し、また、臨床実習施設及び設備の充実を図った。
- ・学校全体としては 7 階トイレの水流改善を図り、2 階に血圧測定器を設置した。また、図書室では 550 冊の蔵書を新規に購入した。

2) 平成 28 年度に重点的に取り組む目標

(1) 職業実践専門課程を申請し、認定を受ける

- ①リハビリテーション学科・東洋医療総合学科の 2 学科について申請し、認定を受ける

(2) 職場環境を整備する

- ①人事評価項目を見直し、改善する
- ②教務部・事務部とのより一層の連携を図る

(3) 教育の質的向上を図る

- ①外部アンケートを実施する
- ②外部講師による授業の授業評価実施に向けた具体的取組みを行う
- ③資格取得に向けた支援体制の充実を図る
- ④内部教員の教育力向上を図る

(4) 退学率低減に向けた具体的取組みを行う

- ①退学者要因分析を継続して実施する
- ②1 年次の学習支援体制の確立に向けた検討を行う
- ③精神的側面に対する支援体制の確立に向けた検討を行う

(5) キャリア教育の充実化を図る

- ①就職ガイダンスの充実を図る
- ②早期からのキャリア教育の明確化を図る

学校法人後藤学園 東京衛生学園専門学校 学校の現況（平成 28 年 5 月 1 日現在）

1. 学校名及び設置者

学校法人後藤学園 東京衛生学園専門学校 学校長 後藤修司

2. 所在地及び認可年月日（所轄庁名）

1953 年 8 月 11 日 東京衛生学園 設置認可（東京都大田区）

1977 年 6 月 10 日 専修学校認可（東京都大田区）

3. 課程・学科の構成と在校生数（平成 28 年 4 月 1 日現在）

課程名	学科名	修業年限	入学定員	収容定員	在校生数
医療専門課程	看護学科二年課程	2 年	40 名	80 名	81 名
	東洋医療総合学科 1 部	3 年	30 名	90 名	89 名
	東洋医療総合学科 2 部	3 年	28 名	84 名	81 名
	リハビリテーション学科	3 年	66 名	198 名	187 名
	臨床教育専攻科	2 年	25 名	50 名	55 名
附帯教育	看護学科二年課程（通信制）	2 年	280 名	560 名	564 名
	合 計		469 名	1062 名	1057 名

4. 平成 27 年度各学科の卒業生数と就職者数（平成 28 年 5 月 1 日現在）

学科名	卒業生数	就職希望者数	就職者数	専門分野就職者数
看護学科二年課程	36 名	33 名	33 名	33 名
東洋医療総合学科 1 部	28 名	21 名	19 名	16 名
東洋医療総合学科 2 部	26 名	25 名	25 名	15 名
リハビリテーション学科	36 名	36 名	36 名	36 名
臨床教育専攻科	24 名	24 名	24 名	22 名
看護学科二年課程（通信制）	263 名	242 名	242 名	242 名
合 計	413 名	380 名	377 名	362 名

5. 成績評価基準（学則・細則より一部改編して抜粋）

学則第 12 条（学習の評価）

- ・ 学習の評価は、当該授業科目の評価（試験・学習状況・学習報告等）により行う
- ・ 授業時数の 3 分の 2 以上を出席した者は、その授業科目（実習を除く）について評価を受けることができる。但し、基礎実技授業（東洋医療総合学科）については、5 分の 4 以上を出席した者が評価を受けることができる。
- ・ 臨床実習・臨地実習・教育実習については、授業時数の 10 分の 9 以上を出席した者が評価を受けることができる。
- ・ やむを得ない事由により授業科目又は実習の評価に必要な出席時間数を満たすことができなかつた者について、教務会議での審議を経て学校長の承認が得られた時、補習又は補習実習を認めることがある。

細則第 6 条（学習の評価・評語）

- ・ 学習の評価は A・B・C・D の標語をもって表示し、A・B・C を合格、D を不合格とする。
A：100～80 点 B：79～70 点 C：69～60 点 D：60 点未満とする。
- ・ 課題等の方法をもって評価する場合は、P・D の標語をもって表示し P を合格、D を不合格とする

6. 卒業要件（学則より一部改編して抜粋）

学則第 30 条（卒業認定）

- ・ 所定の期間在学し、所定の単位を修得した者に、判定会議の審議を経て学校長が卒業を認める。但し、看護学科二年課程については、欠席日数が出席すべき日数の 3 分の 1 を超える者については、原則として卒業を認めない。

7. 既修得単位の認定（学則より一部改編して抜粋）

- ・ 放送大学やその他の大学若しくは高等専門学校又は以下の資格に係る学校若しくは養成所で、本校の教育内容と同一内容の科目を履修したものの単位の認定については、本人からの申請に基づき個々の既習の学習内容を評価し、本校における教育内容に相当するものと認められる場合には、総取得単位数の 2 分の 1 を超えない範囲で、既修得単位と認めることができる。